

山形大学広報誌

みどり樹

Yamagata University Semiannual Magazine

Midori gi

特集

未来をつくる
山形大学とトップ企業が見据える
新時代の変革とこれからの教育

研究室訪問／学士課程基盤教育院

"英語を使う場"を創造し
コミュニケーション力を育む
新時代の教育実践



Spring
2025
vol. **87**

未来を

山形大学とトップ 新時代の変革と

TOPPANホールディングス株式会社
代表取締役社長 CEO

磨秀晴

山形大学工学部を卒業後(1973年)、グローバル企業のトップとして活躍する

TOPPANホールディングス株式会社代表取締役社長 CEOの磨秀晴氏。

山形大学玉手英利学長と共に、デジタル技術やAIを駆使した革新の重要性を語り合い、
変化の時代を担う学生に求めるスキルや実践力について、熱い議論が交わされた。

印刷からその先へ ~創業125年目の挑戦~

玉手学長 磨社長、ご多忙のところを山形大学のためにお時間をいただき、大変ありがとうございます。いま、私たちの社会は、産業構造と自然環境が急速に変化する激動の時代を迎えています。このような変化する社会を生きるために、大学も企業も大きな変革が求められています。2023年に凸版印刷から「TOPPAN」へと社名を変更され、新たな一歩を踏み出された磨社長に、企業の変革についてのお考えや、新時代における大学の社会的責任、そして学びの場としての役割についてお話を伺いたと思います。どうぞよろしく願いいたします。

磨社長 よろしく願いいたします。

玉手学長 社名変更は、テレビコマーシャルでも大きな反響を呼びましたね。長年にわたる印刷業で培われたテクノロ

ジーを基に、時代の変化に合わせて、凸版印刷から「TOPPAN」へと社名変更を行った理由についてお教えてください。

磨社長 TOPPANは、明治期の大蔵省印刷局で、政府が招聘したイタリア人技術者キヨッソーネから、当時最先端の印刷技術である「エルヘート凸版法」を学んだ技術者たちが1900年に創業した会社で、今年で創業125周年を迎えます。

この技術を起点に、社会からの要請や、時代のニーズを捉え、今では情報コミュニケーション、生活・産業、エレクトロニクスの3セグメントに加え、様々な新事業を行う企業体に変貌を遂げており、ペーパーメディアの印刷事業は既に全体の売り上げの20%を切っています。

私は、社長就任当時から「印刷」とついていた社名と、変化してゆく実業に違和感を感じており、いつか変えるべきと考えていました。TOPPANという社名が当社のルーツである「印刷技術」の一部であり、我々の強みである「印刷テクノロ

ジー」を表す良い言葉であったことも幸いでした。

変化の激しい時代に、新しい企業体として、経営体制も持株会社制に変更し、スピード感をもって、ドラスティックに事業ポートフォリオを変革していく意思を社内外に伝える意図がありました。

玉手学長 社名の変更が企業体としての変革そのものであることがよくわかりました。大学も急速に変化する社会において変革が求められています。企業の視点から見て、大学が直面する課題はどのようなものがあるのでしょうか。

磨社長 大学は、社会に貢献する「人財」を育成していくという大きな責任を負っていらっしゃると思います。アカデミアの中で閉じているのではなく、広く社会とつながり、これからの社会にどのような「人財」が必要なのか、社会から大学への期待はどのように変化しているのか、広聴していく事が重要です。社会に開かれた大学として持続可能な活動をしてい

つくる

企業が見据える これからの教育



山形大学学長
玉手英利

くことが最も大きな課題と役割であると
考えます。

また、企業もグローバルなビジネスを
推進していかないと生き残れない状況の
中、各大学がそれぞれグローバルに開か
れた環境を作っていくことも喫緊の課
題でしょう。さらに、健康寿命が伸長し、
一生涯において働く期間が延びている昨
今では、リカレント教育において大学が
果たす役割も大きくなっていると言え
るでしょう。

地方大学については、各地域において、
地方創生を牽引していく存在であるべき
と考えています。大学をハブとして、地
域の様々なステークホルダーが繋がる
場を作ることができれば理想的です。

山形大学はキャンパスが山形全域に広
がり、地域に根差した大学です。その魅
力を活かし、県内の各拠点が地元企業な
どとつながり、地域の産業を支える基盤
となりうると考えています。大学を中心
に産業振興や「人財」交流が行われ、山
形大学が地域社会の核となって、産業界
や地方公共団体などとともに山形の将来
像を語り合い、連携・交流を進める場と
して機能してほしいと思います。

玉手学長 お話いただいたように、山形
大学は県内各地域にキャンパスを持つの

が大きな特色です。山形市にある小白川
キャンパスでは、今年度にスタートした
「社会共創デジタル学環」や設置計画の中
の教育学部など新たな人材育成の取組みが
進んでおり、同市内の飯田キャンパスで
は、健康増進を図る地域協働の拠点とな
る「YU-MAIセンター」が昨年度から活動
を始めました。また2022年から本格稼
働を始めた東日本重粒子センターで治療
を受けた患者さんは2000人を超えました。
新たな動きとして、この1月に「地
域中核・特色ある研究大学強化促進事業
(J-PEAKS)」に山形大学が選ばれ、米
沢キャンパスを中心にした全学展開で、
南東北をサステナブルエレクトロニクス
の先進地域にするための研究力強化事業
が始まりました。さらに、鶴岡市が申請
した「地方大学・地域産業創生交付金事
業」も採択され、農学部と慶應義塾大学
先端生命科学研究所がコアになって農と
食のイノベーション創出を目指した研究
展開と産学官連携が進んでいます。これ
からも、山形大学は、各キャンパスを地
域共創の拠点にして、地域の産業構造や
文化・伝統に根ざした地域創生でますま
す力を発揮していきます。

「人財」が未来を拓く ～山大生に期待する力とは～

玉手学長 ところで、磨社長が、山形大学
で過ごされた学生時代のご様子について
もお聞かせいただけますでしょうか。

磨社長 大学では高分子化学を専攻し、そ
の中で「印刷工学」の講義が面白かったこ
とを覚えています。学生時代は工学部キャン
パスのある山形県米沢市に下宿してい
て、部活の合気道中心の生活を送ってい
ました。就職活動ではTOPPANだけしか受
けませんでした。当時言われていた「技術の
TOPPAN」という言葉に魅かれ、また業界
2位の会社ということで、1位を目指せるポテ
ンシャルがあることに、やりがいがあると思っ
たのです。入社後、営業、製品開発、工
場技術、海外駐在、経営企画など、様々
な職場を経験しましたが、実は入社時から自
身のキャリアパスをある程度想定していたの
です。そのために技術系でありながら営業マ
インドを身につけることを目的に営業所勤務
を希望し、その傍ら語学の勉強も自主的に
してきました。結果を想定し、準備をしま
り行って取り組んでいく、という行動パター
ンは、学生時代、結果を想定して計画し実験
を繰り返す、という研究生生活の中で身に
つけたと感じます。入社当時に想定していた自

分のキャリアパスについては、営業マインドを身につけたうえで、製品開発にも携わることができましたし、グローバルで活躍したいという希望も叶って海外赴任も経験し、ほぼ実現できました。社長として、山形大学で培った技術系の思考、行動パターンが今の自分を作っているのではないかと思います。

玉手学長 企業の視点から、学生に求めるスキルや能力はどのように変化してきているとお考えでしょうか。

鷹社長 企業が必要とする「人財」という観点で見ると、大学教育においては、専門知識を身につけることはもちろんのことですが、文理を問わずリベラルアーツ教育を重視し、それを通じて論理的思考力、規範的判断力、課題発見・解決能力、未来社会の構想・設計力を育み、バランスの良い「人財」となってほしいと考えています。また、これからの日本経済の在り方を考えると、日本に閉じこもることなく、グローバル感覚を早くから養うことが重要で、語学の勉強に限らず、海外留学生等との交流に積極的に参加するなど、世界をフィールドにする「人財」となることが求められます。

玉手学長 大学において専門分野を問わず身につけるべき能力や姿勢の大切さをお話いただきました。それに関して、山形大学の将来ビジョン「つなぐちから。山形大学」では、深く考え実行する力、果敢に挑戦す

る心、他者との協働、という3つの教育目標を掲げています。また、学生の皆さんには様々な機会を捉えて、グローバルな体験をしてもらいたいと思います。本学では「学生大使」という短期海外派遣のプログラムもあるので、積極的に利用してほしいと願っています。

デジタルで切り拓く新時代 ～革新の本質を探る～

玉手学長 鷹社長は、時代に応じた変革のDNAを、デジタル領域へと広げてこられました。TOPPANの強みでもあるDX（デジタルトランスフォーメーション）について、その重要性和大学のDX教育に関するお考えをお聞かせください。

鷹社長 通信技術や半導体などの高度化を通じて、巨大データを動かすためのインフラが整いつつあります。このような世界において、単にアナログをデジタルに置き換えるだけではなく、デジタル技術を活用して、これまでの価値観や枠組みを超える「革新」を起こしていかなければ、企業は生き残っていく事ができないと考えます。今や、製造においても、開発においても、また営業やマーケティングにおいてもDXと無縁の仕事はありません。企業は、自らをDXにより変革し

つつ、データとデジタル技術を活用した革新的な製品、サービスやソリューションを社会に提供していく役割を担っています。

玉手学長 DXを推進させることで未来はどのように変わるのでしょうか。

鷹社長 企業がデータとデジタル技術を活用して、既存ビジネスモデルの深化や業務変革・新規ビジネスモデルの創出を行っていくことで、顧客提供価値や収益等が向上するでしょう。また、DXにより生産性や従業員エンゲージメントが向上し、働きがいのある職場となることにより、いわゆる人的資本経営が実現すると考えます。今求められている「Well-Being」な社会の実現には、DXの活用が不可欠です。また、DXの進展によりデータ連携が進むことによって、国境・産業・組織等の垣根が取り払われていくはずです。ビジネスを行ううえで、グローバル化は当然のことになってくると思います。

玉手学長 コロナ禍のもとで大学も業務のデジタル化、例えばオンライン学習やウェブ会議の利用などは大きく進みました。しかし、DXの本質は業態そのものを変革することで、まさに御社がそれを実現されていることを実感しました。変化し続けるデジタル社会を生きるために、学生時代はどのような学びが必要でしょうか。

鷹社長 今の学生の皆さんは、IT機器が当たり前存在するデジタルネイティブ世代

鷹秀晴

まろひではる●TOPPANホールディングス株式会社代表取締役社長CEO。山形大学工学部高分子化学科卒業後、凸版印刷(株)入社。事業ポートフォリオの変革に取り組み、海外売上高比率の飛躍的向上を実現した。

です。検索したり、動画を撮影し加工したり、といった既にあるITサービスを使いこなすスキルがとても高いと思います。しかし、ガジェットやサービスの利便性を享受することとデジタルスキルがあるということはイコールではないと考えます。そこから一歩進んで、データドリブンな考え方を身につけたり、データ活用によって新しいものを生み出していくという創造性や、AIをどのように活用して効率を向上させるかといった施策全体の構築力など、デジタルに使われるのではなく、デジタルを使いこなすための考え方やスキルを身につけてほしいと思います。

玉手学長 使われるのではなく使いこなすための能力を身につけるといってお話は、学生の皆さんにとって大変重要な学びの目標をお示しいただいたと思います。山形大学ではデジタル人材の育成を推進するために、今年度から50年ぶりの新しい学部相当組織となる「社会共創デジタル学環」を開設し、大学院でも「理工学研究科数理情報システム専攻」を新設しました。それだけではなく、これからは各学部・研究科においても、データの質を見極める力やデータに基づき意思決定する能力を高める教育を進めたいと考えています。



玉手英利

たまためでとし●山形大学学長。
東北大学大学院理学研究科修了。
専門は進化生物学、生態・環境、
生態遺伝学。理学部長、小白川キャンパス長を経て2020年より現職。

AI時代の「人間力」 ～技術を制する知恵と倫理～

玉手学長 生成AIへの注目が高まる中、忘れてならないのが「人間らしさ」ではないでしょうか。御社でのAIの活用事例をお聞かせいただきながら、教育と企業がどのように協力して「人間らしさ」を保ちつつ新しい技術を使っていくのか、お考えをお聞かせください。

磨社長 一例ですが、工場において技能伝承に使う生成AIを自社開発して、活用しています。熟練技術者のノウハウや暗黙知を学習させたもので、例えば、「包装材料フィルムの印刷装置で異音が出る」と入力すると、「温度が200度超にあがっているのでは」「ネジの緩みは」などと返してくれます。これにより機械の故障などによる生産設備の停止時間を3割以上減らせると見込んでいます。現在はパッケージの工場などで導入していますが、メンテナンスによる停止時間や、関連の事務作業時間も短縮できるなど、成果が確認できました。ベテランの技術者の技能伝承という意義もある取組みなので、スピードをもって全国の工場に広げていこうと思っています。

玉手学長 AIの活用について、社内ではどのような点に気を配られているのでしょうか。

磨社長 当社内では、この1年でAIの利用が様々な部門で急速に進み、約160件のプロジェクトが同時進行しています。そこで全社AIプロジェクトを立ち上げ、効率的な活用を目指しています。特に重要なのは、人でなくてはならない仕事とAIに任せる業務を適切に仕分けし、レジリエンスの高い組織を作ることです。

玉手学長 AIの活用について、大学生や高校生が今から意識すべきことはあるでしょうか。

磨社長 AI活用は今の学生の皆さんなら当たり前前と考えていると思います。しかし、AIは万能ではありません。AIが提示する文章や生成物の正確性や権利侵害の可能性など、様々なリスクを認識したうえで、「使いこなす」ものであることを忘れてはなりません。

当社においても、AI使用にあたっての「AI倫理規定」を策定し、あくまでも人間中心のAI活用であること、人権やプライバシーを尊重して利用すべきことなどを明文化しています。AIに振り回され支配されて、意識しないうちに他人を傷つけたり、権利を侵害してしまわないために、「倫理観」が必須であることを、常に意識して欲しいと思います。

玉手学長 a blessing and a curseとい

う英語の言い回しがありますが、まさにAIは祝福でもあり呪いでもあると言えます。AIを用いることで文章作成をはじめ、様々な能力における個人差は、一定レベルまでは解消されるでしょう。そうすると、それぞれが自分の個性や能力をどうやって発揮するかが、ますます重要になると思います。学生の皆さんには大学で学ぶなかで、AIを上手に使いこなして「自分らしさ」を表現しながら社会で活躍する能力を身につけてほしいと願っています。

成功の反対は「挑戦しないこと」 ～磨社長からのメッセージ～

玉手学長 最後に、山形大学の卒業生であり、日本を越え世界でも活躍する磨社長から、山形大学とそこで学んでいる学生の皆さん、そしてこれから本学で学ぶ新入生の皆さんに向けたメッセージをお願いします。

磨社長 山形という地域に根差し、かつ世界に開かれた大学として進化していることが山形大学の大きな魅力であると思います。新たに開設される新しい教育組織の「社会共創デジタル学環」や高度情報専門人材の育成を行う大学院の「数理情報システム専攻」も、社会の要請に 대응しており、そこから輩出されるであろう「人財」の活躍が今から楽しみです。「社会と『共に育ち、共に創り、共に生きる』を実践」という山形大学将来ビジョンの基本宣言を実現する山形大学のこれからの、私自身も大きく期待しています。

目標を持ち、それに向かって努力を続けければ、いつかチャンスは巡ってくるということを若い人々に是非伝えたいと思います。そのために、時間やお金など「自分への投資」を惜しまないでほしい。これは、学生時代だけではなく社会に出ても同じことだと思います。自己投資は長期的なものなので、すぐには役に立たないかもしれませんが、将来必ず役に立つときがきます。

また、現在や将来の課題に対して主体的に動き、挑戦してください。「成功」の反対は「失敗」と捉えがちですが、そうではなく、成功の反対は「挑戦しないこと」です。たとえ失敗しても、挑戦すれば「経験」という資産が自分の糧になるはずで、挑戦する勇気をもって、自らキャリアを切り開いてください。

玉手学長 本日は貴重なお話をいただき、ありがとうございました。磨社長のような社会を変革するリーダーが、これからも山形大学から誕生することを願っています。

YAMADAI TOPICS

小白川キャンパス

Kojirakawa Campus

小白川キャンパスにて 第58回八峰祭を 開催しました



第58回八峰祭

令和6年10月26日(土)、27日(日)に「第58回八峰祭」を開催しました。当日は約3,500の方に来場していただきました。

27日(日)には、山形住みます芸人としておなじみの「ソラシド」と、昨年度の女芸人No.1決定戦 THE Wで決勝進出を果たした「スパイク」さんの2組をお招きしてスペシャルライブを行っていただきました。お呼びした芸人さんにはビンゴ大会の進行も行っていたり、会場は大いに盛り上がりました。また、昨年度よりも実行委員や参加団体が大幅に増え、ステージ発表や各参加団体の出展を通じて、八峰祭がより大きくなったことを実感しました。

八峰祭を開催するにあたってご協力いただきました地域、企業、大学関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。八峰祭は地域のお祭りとして、今後も規模を拡大して山形を盛り上げていきます。次年度以降もより地域の皆様に楽しんでいただけるよう、実行委員一同準備して参ります。

小白川キャンパス

Kojirakawa Campus

第52回模擬裁判公演 「謀りて ～一本の電話～」 終演!

令和6年12月6日(金)・7日(土)に山形テルサにて第52回模擬裁判公演を開催し、多くの方にご来場いただきました。模擬裁判実行委員会は、人文社会科学部の学生を中心に構成される学生研究団体であり、今年で創立52年目を迎えました。伝統を受け継ぎながらもその時代で注目度が高いテーマに挑戦し、「模擬裁判劇」という形で1年間の研究成果を発表しております。

今年は「特殊詐欺」をテーマとして扱いました。被害に遭いやすい高齢者に対してだけでなく、犯罪の片棒を担ぐ可能性が比較的高い若者へ警鐘を鳴らすという点も意識し、終演後のアンケートから、公演を開催する意義があったと実感できるご感想を多数お寄せいただきました。

当団体の活動が、地域の皆様にとって安心して暮らすことができる社会の実現に少しでも貢献し、また、社会の動向を知った上で、法や裁判との関係性についても考えていただくきっかけとなっていましたら幸いです。



公演成功に向けて一致団結!

小白川キャンパス

Kojirakawa Campus

五堰等 小白川キャンパス周辺の 清掃活動を行いました



みるみるきれいになっていく笹堰

令和6年10月24日(木)、2日後に行われる八峰祭に向けて、小白川キャンパスにお越しになるお客様に気持ち良く過ごしていただけるよう、有志の学生や教職員で五堰等キャンパス周辺の清掃活動を実施しました。

清掃は約1時間にわたり、青空の下で堰の草刈りやごみ拾いを行うことができました。今年の猛暑で伸びきった雑草で、集まったごみ袋は20袋以上。手際よく草を刈っていく職員の傍らで、堰の泥やひっつき虫に苦戦しながらも、煩をいとわず楽しんで作業する学生の姿が見られました。雑草で覆われていた堰は綺麗に片付き、充実した清掃活動となりました。

今回清掃した大学周辺の笹堰は、世界かんがい施設遺産である山形五堰の一つです。景観を維持し、地域に貢献することで、山形大学の魅力度アップにも繋がることを期待しています。今後もより快適で過ごしやすい学生生活を送れるよう、取組みの輪を広げていき、定期的な清掃活動を行ってまいります。

各学部からさまざまな話題や近況が届きました。
山形大学の多方面での活動、活躍にご注目ください。

医学部

Faculty of Medicine

YU-MAIセンター 開所記念式典を 行いました

令和6年12月6日(金)、Yamagata University faculty of Medicine Advanced Innovation Center (YU-MAIセンター)の完成を祝して、内覧会、テープカット、開所記念式典及び記念講演会を行いました。まず、センター内を自由にご見学いただいた後、関係者によるテープカットを行い、新たな門出を祝いました。その後、50周年記念講堂に会場を移して記念式典を開催し、永瀬智学部長の式辞と玉手英利学長挨拶の後、来賓の方々よりご祝辞を頂戴しました。式典後は、記念講演会として、放射線医学講座放射線腫瘍学分野 小藤昌志教授、公衆衛生学・衛生学講座 今田恒夫教授より、今後の医療の展望や地域の健康に関するお話をいただき、皆様熱心に講演に耳を傾けていました。本センターは、医療を核にしたイノベーションコモンズとなるべく、教育研究さらに地域協働を通じた健康増進を図るための知と人材を集積する拠点として活用していきます。



YU-MAIセンター開所記念テープカットの様子

工学部

Faculty of Engineering

「イノベーションの創出に 向けた連携にかかる 基本合意書」を 締結しました



写真左から黒田充紀山形大学工学部長、吉村美栄子山形県知事、近藤洋介米沢市長、加藤英樹米沢商工会議所会頭

令和6年12月18日(水)、米沢市役所において、イノベーションの創出に向けた連携にかかる基本合意書締結式を行いました。

山形県、米沢市、米沢商工会議所及び山形大学工学部の4者により「イノベーション共創ミーティング」を令和6年9月に立ち上げ、置賜地域のポテンシャルを活かした新たなイノベーション創出のための取組みを検討しています。

米沢商工会議所新会館(令和8年秋開館予定)を核として、拠点の運営・推進のためのソフト事業に取り組んでいくことに合意し、「基本合意書」を締結しました。

この取組みを通し、地元企業や大学、行政が一体となり、地域経済の活性化と発展を目指していきます。今後は、地域の課題解決及び起業支援にも力を入れ、地域全体のイノベーションシステムを構築し、米沢市及び置賜地域が、持続可能で魅力的な地域社会へと進化していくことを目指します。今回の基本合意書締結を契機に、地域の協力を深め、更なる発展を遂げることが期待されます。

農学部

Faculty of Agriculture

留学生サポーター企画 による国際交流イベントを 開催 ～芋煮会・かるた大会～

令和6年10月6日(日)、山形市馬見ヶ崎河川敷で「庄内・村山食べ比べ芋煮会」を開催しました。農学部留学生サポーターと県のやまがた留学アンバサダーが企画し、鶴岡、山形、米沢から学生・留学生、地域住民約100名が参加しました。村山風(醤油味)、庄内風(味噌味)、ハラル対応の3種の芋煮を味わいながら交流を深めました。里芋は鶴岡市の農家協力のもと学生たちが収穫したものを使用し、地元食材の魅力を堪能しました。

12月21日(土)には、かるた大会を実施。学生・留学生、地域住民45名が参加し、和菓子と日本茶を楽しみながら、日本文化に触れました。参加した留学生は農学部の日本語クラスを受講しており、学習の成果を発揮して、トーナメント戦では白熱した勝負が繰り広げられました。参加学生からは「地域の方々との交流できて嬉しい」といった感想が寄せられました。在学生の約1割が留学生という環境を生かし、地域と連携したイベントや交流を通じて、キャンパス全体で国際的な学びを推進しています。



上:芋煮会、下:かるた大会

Hello!
研究室
訪問

ダグラス先生の 研究室にて

研究室の扉を開けると壁一面のボードゲームがお出迎え。海外のものだけでなく、囲碁や将棋、麻雀なども揃っており、先生のボードゲーム愛が溢れる空間だ。

"英語を使う場"を創造し コミュニケーション力を育む 新時代の教育実践

グローグ ダグラス(学士課程基盤教育院准教授)

令和5年からの基盤共通教育改革において、英語教育のアクティブラーニング化を推進するグローグ ダグラス先生。少人数制とグループワークを導入した「コミュニケーション英語」では、ボードゲームを活用した独自の教育手法で学生の意欲を引き出す。「試験のための英語」から「伝えるための英語」への転換を図り、新しい時代の英語教育に挑戦している。

アクティブラーニングで変える 基盤共通教育の英語授業

「英語の授業では、教員があまり喋らないことが重要です」と語るのは、基盤教育院のグローグ ダグラス先生だ。現在、基盤共通教育の改革を主導し、英語教育のアクティブラーニング化を推進する中心的存在として、革新的な教育実践を展開している。

改革の核となるのは、全学必修の基盤共通科目「コミュニケーション英語」における新しい学習アプローチだ。基礎的な学習はオンライン教材で行い、対面授業では学生同士の実践的なディスカッションに専念する。クラスサイズを36名から25名に縮小し、より密度の高い少人数教育を実現。学生は事前に課題に取組み、授業では「21世紀スキル（情報創造力、問題解決力など、変化の激しい現代社会で活躍するために必要な能力・資質）」の育成を重視した活動に集中できる。

特筆すべきは、翻訳ソフトに頼らない授業設計だ。日本の外国語教育に関する国際学会「JALT」のネットワークを通じ、他大学の教育者と共有する多様なトピック教材を活用し、学生が自分の意見を考え、発信する機会を重視している。「全国の教育者との交流で得た知見を活かし、英語力と社会的スキルの両方を育成することを目指しています」とダグラス先生は語る。授業では、ボードゲームなどの教材を活用し、学生が主体的にコミュニケーションを図る場面を創出している。

新庄市での教育経験から 山形大学の改革へ

ダグラス先生の日本での教育キャリアは、平成3年に最上教育事務所の英語指導助手（ALT）として着任したことから始まる。ALT制度が始まって間もない時期、イギリスから来日し、最上地域の中学校を巡回して授業を行った。その後、鮭川村の教育委員会で英語講師を務め、小学校での「国際理解」の授業も担当。「当時はまだ小学校英語が必修化される前で、とても自由に授業を作ることができました」と、懐かしそうに振り返る。

平成9年からは新庄東高校で英語講師と



グローグ ダグラス

准教授 / シェフィールド大学東南アジア日本文化修士課程修了。専門は人文・社会、外国語教育。最上郡の小・中・高等学校の指導方法を学びながら、現代社会に適應できるように大学の英語授業を改善することを目的に、日々精進している。令和6年度山形大学学長表彰受賞。

して教壇に立つ。大学受験を意識した授業は責任も重く、「この先もずっと高校の英語教育に携わるか迷いながらも、いつか自由に教えられる『大学』に行きたいという思いがありました」。その思いは、山形大学での非常勤講師を経て、特別非常勤教員として4年間の経験を重ねる中で次第に具体化していった。

そして令和5年、基盤共通教育改革の中心的役割を担うことになる。「これまで協力して改革を進めてきた5名の外国人教員もフルタイムとなり、新たな取組みをより積極的に展開できるようになります」。30年以上に及ぶ教育経験は、山形大学の英語教育改革の確かな土台となっている。

キャンパスに広がる 英語コミュニティの創造へ

「3、4年後には、フロア全体を英語のスペースにしたい」。ダグラス先生が描く未来図は、単なる教室を超えた、新しい学びの場の創造だ。水曜日の4限目には学生が自由に教員の研究室を訪れ、英会話練習ができる時間を設けている。こうした取組みをさらに発展させ、より開かれた英語学習の環境づくりを目指す。

木曜日の4限目には「スペシャルサブジェクトイングリッシュ」という特別な授業も展開している。デジタルフォトグラフィーやクリティカルシンキングなど、英語以外の題材を全て英語で学ぶ。「海外の大学のような授業の雰囲気を作りたい」という思いから生まれた試みだ。

「山形県は普段、外国人とすれ違う機会が少ない場所です。だからこそ、大学の中に留学生と気軽に話せる場所を作りたい」。火曜日と木曜日の夜には、学生と留学生がボードゲームを通じて交流する機会も設けている。完璧な英語を目指すのではなく、「伝えたい」という気持ちを大切にする。その言葉には、新しい時代の英語教育者としての確かな信念が込められている。

ダグラス先生の授業風景



全員が異なるボードゲームを担当し、4週間かけてルールを英語で説明できるよう準備する。自然と学習意欲が高まるという。

「English Weekend」の活動



「English Weekend」では、学部を超えた交流が生まれる。日本人学生と留学生と一緒にゲームを楽しみながら和やかに会話を交わす。英語を介した新たなコミュニティの形が見えてくる。

グループワーク



グループワークを通じて英語での対話を深め、協働的なコミュニケーション力を磨いていく。2年生になると会話を録音して振り返り学習も行う。



学生とゲームを楽しむダグラス先生。「完璧な英語ではなく、伝える気持ち大切」との思いから、気軽な英会話の場を創出している。

学生との交流



「留学すれば必ずチャンスが広がる」と語るダグラス先生。かつての教え子の結婚式でスピーチを頼まれることも。中学生から大学、留学と見守った学生との絆は、今も続いている。



笹木郁乃

ささきいの●宮城県出身。株式会社LITA CEO。工学部を卒業し、アイシン精機入社。ベンチャー企業等への転職を経てPR会社を起業。企業のPR活動のサポート、講演会活動などで活躍中。

転身の成果

「いつ死んでも後悔しない人生を生きたい!」小学生の時に交通事故に遭い、大きな手術を受け、20歳までに後遺症が出るかもしれないと言われた笹木郁乃さんは、こんな覚悟を持って生きている。幸い、後遺症が出ることはなかったが、1日1日を全力で生きる習慣が身に付いているのだ。数学が得意で理学部数理科学科に進学した笹木さんだったが、より直接的に社会貢献できるモノづくりに魅力を感じて工学部への転学部を希望。当時、転学部の事例は少なかったため容易ではなかったが、熱烈にアピールし、試験を受けて許可を勝ち取った。周囲を騒がせてまで転学部したのだから結果を残さなければと、必死に勉強をして、卒業時には「日本機械学会島山賞」(4年制大学機械系学科の卒業生で人格、学業ともに優秀な者の中から、1学科につき毎年1名(2学科以上の場合は各1名)を表彰)を受賞。さらに、バイトもサークル活動も楽しみながら頑張り、やればできるという自己肯定感を大いに高めた大学時代だったと振り返る。当時の恩師であり、現理事・副学長の飯塚博先生とは今も交流が続いている。

卒業後は、自動車部品などを製造・販売する大手企業アイシン精機に研究開発職として入社。安定した環境の中で貴重な経験を積んだが、より自分の強みを活かし、成長できる環境に挑戦したいと考え、マットレスでお馴染み「エアウィーヴ」、そして鋳物ホーロー鍋バーミキュラの「愛知ドビー」へと2度の転職を経験。両社でPRやマーケティングを担当し、知名度アップや業績急成長に貢献した。その実績と経験を生かして起業し、現在は株式会社LITA(利他)のCEOであり、PR塾の主宰者として活躍している。

将来的には、出身地である宮城、母校のある山形の発展に寄与したいと東北支社の開設を展望し、さらに、全国をマーケットに日本一のPR会社を目指すと言。現状に甘んじることなく常に前へ、次へと突き進む笹木さんのバイタリティならやり遂げてしまうのではと期待してしまう。自らを信じて大きな目標を掲げてチャレンジを続ける先輩の姿は、後輩たちへの力強いエールだ。



山大聖火リレー



大学で身につけた「自分を肯定する力」を強みに大胆な転職での成功を経てPR会社を起業。

笹木郁乃 株式会社LITA / CEO



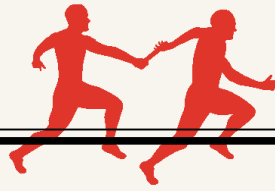
学生時代は学費やサークル活動費を稼ぐためにバイトを掛け持ちしながらも、学部での首席を目指し、勉強に励んでいた。



株式会社LITAで行っている「PR塾」の様子。現代の情報化社会に欠かせないスキルを学べる場として存在感を発揮している。

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生や卒業・修了生たちが各方面で活躍する姿を追った。

Humanities and Social Sciences • Education, Art and Science •
Science • Medicine • Engineering • Agriculture



躍動の成果



石川舞桜

いしかわまお●人文社会科学部人文社会科学科地域公共政策コース3年。山形県出身。山形大学花笠サークル四面楚歌第21代会長。様々なイベントで山形の伝統文化を発信。学業面でも観光やまちづくりを専攻するほど地域貢献への思いは強い。



国際交流の一環として招待された台湾のイベントにて。山形の良さを伝えるための一助として花笠踊りを演舞した。



第62回山形花笠まつりでの演舞披露後の記念撮影。仲間とともに笑顔でフィニッシュし、山形の夏の夜を鮮やかに彩った。

花笠サークル「四面楚歌」を率いた経験を生かし 人々に笑顔を、地域に元気を届ける。

石川舞桜 人文社会科学部3年



「山形大学花笠サークル四面楚歌」は、メンバー200名を超える大人気サークル。県内はもちろん全国各地や海外の様々なイベント等から依頼を受けて花笠踊りを披露し、山形の伝統文化を発信している。その第21代会長を務めた人文社会科学部の石川舞桜さんは、県内出身ということもあって花笠踊りには馴染みがあり、地域を盛り上げたいという気持ちと「四面楚歌は楽しそうだよ」という先輩の言葉で加入を決めた。2年次の終盤、将来のために社交性や積極性に磨きをかけようと自ら会長選に立候補して大役を掴み、小白川・米沢・飯田・鶴岡のキャンパスにある4支部を統括する会長として多忙かつ充実した1年を過ごした。

かつてないほどメンバーが増え、各種イベントへの参加に加えて小学校や高校での演舞指導の依頼も増えたことでサークルの運営はこれまで以上に大変に。そんな中でも石川さんが最も大切にしてきたことは、メンバーがどんなに増えても踊りの質を落とさないこと、純粋に花笠踊りを楽しむこと。そのために練習はしっかり週3回、イベント等への参加は希望制を貫いている。これまで大小さまざまなイベントで踊りを披露してきた石川さん自身、特に印象に残っている活動は、国際交流の一環として台湾で披露した演舞と、地元の高齢者施設での演舞と交流を挙げた。「山形花笠まつりのような大きなイベントでの演舞はもちろん充実感、達成感がありますが、より直接的に人と触れ合い、踊りを披露することで笑顔になってもらえる地道な活動にも大きな喜びを感じます」と石川さん。

地域公共政策コースのまちづくりや観光について学ぶゼミに所属し、将来は地元へ貢献できる仕事に就きたいと、公務員あるいは地元企業を志望している。会長職を通して培ったリーダーシップや交渉力、人脈などをフルに活用して地域に活気をもたらしてくれることだろう。今後の四面楚歌のさらなる躍進にも石川さんの活躍にも大いに期待できそうだ。

学生の「やりたい!」を応援する 学生チャレンジプロジェクト

山形大学では、学生生活の活性化・充実化を目的として、学生の創造性・自主性・積極性を高め、大学や地域との関わりを深める魅力的な活動「山形大学学生チャレンジプロジェクト」を2022年6月より実施しています。その根底には、山形大学の教育ビジョンのひとつである「挑戦する心を育む」というテーマがあります。今年度は、①地域を元気にする、②山形大学を元気にする、③自分たちの夢を叶える、この3つをテーマとし、2024年6月に募集を開始しました。採択された15件のプロジェクトには、20万円を上限にそれぞれ活動資金が助成されました。

2024年度採択プロジェクトの紹介

- 山大アルファ化米粉普及プロジェクト



- つみき
山形大学地域教育文化学科
文化創生コース 4年作品展



- 福島県いわき市湯本温泉を
活用した化粧品製作プロジェクト

- 『バイナリメモリ』

- 村山市に訪れた外国人観光客と
飲食店をつなぐ

- そばあとfrom戸沢村

- 舟形まんぶくプロジェクト



- 山形市水辺SCP計画
(Survey, Consider, Promotion)



- エコ×ウェアプロジェクト

- 食文化を通じて交流を深める会
ー 作って食べて友達になろうー

- 学生間異文化交流
ー モンゴルの風にポーズを添えてー

- Yamagata Duo Recital
プロジェクト



- Englishで若者を繋ぎ
英語力の向上を目指す



- にじいろ絵本読み聞かせ会

- シーンと静まる商店街の夜…
怪物たちがやってくる…

募集内容などの
詳細についてはこちら!





山形大学は就職に強い!



ガイダンスの様子



個別就職相談の様子

※ 令和6年3月卒業生の就職率(就職決定者/就職希望者)

就職も進学も多様な進路が選択できます

民間企業



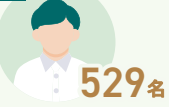
臨床研修医
看護師等



公務員・教員



進学



※ 就職・進学者数は令和6年3月卒業生の実績です。

村山地域での学会・大会・研究会等、ご相談ください

主な支援のご案内

◆ コンベンション開催助成金

宿泊者数に応じて支援 国内在住参加者1人あたり 3,000円~
国外在住参加者1人あたり 10,000円~

◆ 貸切バス費用支援

例) 現地参加者100人以上1,000人以下の場合、10万円
開催地以外の村山広域圏へエクスカーション実施で、^{プラス}10万円

◆ アトラクション費用支援(上限額10万円)

ホームページ リニューアル!!

会場情報がわかりやすくなりました。
ぜひご活用ください。



その他、会場選定のご相談など様々な支援で、
学会・大会・研究会等の開催をサポートします! **ご相談はお早めに! 詳しくは下記までお問い合わせください!**



一般財団法人山形コンベンションビューロー

☎023-635-3000

✉ sales@convention.or.jp

山形 コンベンション

検索

村山地域

庄内地域での学会・研究会 開催についてご相談ください!

当協会は、鶴岡市・酒田市・三川町・庄内町・遊佐町及び戸沢村で
開催の学会等の開催支援を行っています。お気軽にご相談ください。

- ① 歓迎看板の掲出
- ② 観光パンフレット
 コングレスバック提供
- ③ エクスカーション等の相談
- ④ 開催支援助成金 等



令和6年度の開催支援助成金は...

宿泊参加者助成金: 国内在住者3,000円/人 国外在住者10,000円/人
200名以上の場合は更に増額!

* 各種要件等の詳細は当協会までお問合せください。 **開催前年度の8月締切**

開催支援詳細



庄内観光コンベンション協会 TEL. 0235-68-2511
やまがた庄内観光サイト <https://mokedano.net/> 山形県東田川郡三川町大字横山字袖東19-1

庄内地域

広告掲載ご希望の方は、山形大学総務部総務課秘書広報室までお問い合わせください。TEL. 023-628-4010

見つけて!感じて!
サイエンスマジック!

Be☆らぼ!

山大サイエンスカー



金曜日
(第1週)
20:00 - 20:30

月
日
()
直
リ
ズ
ム
ス
テ
ー
シ
ョ
ン

県内各地の中学校で「出張実験×ラジオ放送」を展開中です♪
最新の科学をわかりやすい実験を通して紹介!
生徒たちの中で流行していること、学校の特色・取り組みなども
インタビューしていきます!



栗山恭直
(山形大学教授
(理学部担当))



福田雅
(リズムステーション
アナウンサー)

県内の中学生にもっと科学の楽しさを知ってもらいたい!そんな思いを胸に、
栗山先生と福田アナウンサーが、山大サイエンスカーで出張実験にまわります。
サイエンスマジックを見つけてもらうためのスペシャルプログラムです♪
これまでの実験回数はなんと100回以上にもなります。

実験で大切にしているのは
「身の回りにある不思議に
科学で迫っていく」
というスタイル!!
今回は新庄市にある
萩野学園での実験の
様子を紹介します。

新庄市立萩野学園



ちなみに水素と酸素に火を近づけると、
大きな音を立てて爆発が起こります!!
最初は怖がっていた中学生も、途中から
もっと大きな爆発を起こそうと積極的に
いろんな方法を自分から考えていました。

実験のテーマは『電気分解』。
「水は電気による分解を行うと水素と酸素になる」...
中学校の理科で習う内容なのですが、
Be☆らぼの実験は一味違う!!
実際に水素と酸素が発生している事を
確かめるために火を近づけて
その反応を見るのがこの実験のポイント♪



爆発が起きるほど力強い水素パワー。
現在は「燃料電池」としての
研究・実用化が盛んに行われています。
人類の未来を明るく照らす「科学」。
その可能性に触れることができるのが
「Be☆らぼ!山大サイエンスカー」です!!

これからも
*Let's enjoy
science magic!*



放送時間 毎週月～木曜日 16:00-18:55

あなたの知的好奇心にアプローチする情報ワイド番組、
それが「WAVE4 yamagata EXCEED」。
曜日ごとに異なるMC・ゲストパーソナリティが登場し、天気・交通・
ニュースを紹介しつつ、個性あふれる情報を紹介しております。
「車」・「健康」・「カプセルトイ」・「昭和歌謡」などなど...
多種多様なジャンルに特化した曜日替わりのコーナーにも注目です!
番組への参加は、メッセージはエフエム山形の番組投稿フォームから。
もしくはXで#w4yをつけてポスト!!!!

Personality

月 岩崎敬/ティーナカリーナ 火 福田雅/MICHICA
水 渡辺望由季/ワッキー貝山 木 岩崎敬



株式会社エフエム山形

本社/山形市松山三丁目14番69号 TEL 023-625-0804
庄内支社/鶴岡市茅原町28番47号 TEL 0235-22-6800

番組ブログ更新中!山形大学のホームページで過去の放送を聴くことができます! www.rfm.co.jp

周波数

山形 80.4MHz
鶴岡 76.9MHz
新庄 78.2MHz
米沢 77.3MHz



山形大学基金ご協力をお願い

日頃より山形大学にご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。山形大学基金は、本学における学生支援及び教育研究支援等に資することを目的に創設いたしました。本基金の趣旨へのご理解を賜りますとともに、今後ともより一層のお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。

山形大学基金では、次に掲げるご支援をお願いしております。

- 経済的修学困難学生へのご支援
- 障がいのある学生等へのご支援
- 大学公認学生サークルへのご支援
- 山形大学運営全般へのご支援
- 学部等へのご支援
- 附属学校(園)へのご支援
- やまだい未来へつなぐプロジェクト

お問合せ

山形大学基金担当 TEL 023-628-4497 E-mail : yu-kikin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学基金
ホームページ



「山形大学基金」にご寄付いただきありがとうございます。

「山形大学基金」にご寄付いただいた皆様のご芳名は、山形大学基金ホームページに掲載させていただいております。下記の URL またはQRコードからご覧ください。心より御礼申し上げます。(なお、公開を希望されていない方々につきましては、掲載をしております)

https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/fund/about_fund/gratitude/



山形大学応援キャンペーンを実施しました

2024年度開学75周年を迎えた山形大学は、2024年12月9日～2025年1月14日に、次の100年に向けより良い大学を目指すため、初めて「山形大学基金」を活用した「山形大学応援キャンペーン」を実施しました。キャンペーン期間中は多くの方々から応援をいただき、合計200万円弱のご寄付をいただくとともに、下記のような温かい応援メッセージを多数いただきました。(一部抜粋)

キャンペーンを通して、改めて様々な方々から支えられている大学であることを実感するとともに、多くの支援者の皆さまの期待に応えられるよう努めて参ります。

この度は、心温まる支援をいただき誠にありがとうございました。今後とも山形大学をよろしくお願いいたします。



応援メッセージ

学生時代に経験した
楽しさや辛さや思い出が
自分の糧になるのは、
遠い先ではなく近い未来です。
社会人になると世界は一気に
広がります。大丈夫！

学ぶ楽しさ面白さがあり、
ここで学びたいと
思える学校づくりに
少しでも役立てて
いただければ幸いです。

新たな学部
(学環)に期待して
おります！

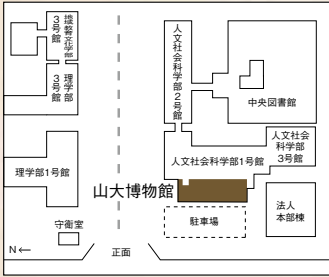
母校がより良い
学びの場となるよう、
微力ながら
寄付いたします。



山大博物館

シリーズ 47

山形大学附属博物館の収蔵品をはじめ、
大学が誇る貴重な資料を紹介いたします。



れんによしようにんろくじおみようごう (蓮如上人六字御名号)

うけあいしょうものこと
請合証文之事 文政7年(1824)

一紙 縦28.7cm×横32.5cm

紹介する文書は稲村家文書中の1通である。稲村家は、江戸時代、京都・大阪へ紅花、青苧、漆蠟、米などの販売を通じ繁栄した山辺町大蔵の豪商。

本文書は京都東六条伊藤政蔵忠常が稲村七太郎に出した文書で、七太郎は稲村家一族、伊藤は京都商人であろう。

ここには伊藤が間違いのない蓮如上人真筆の六字名号を七太郎に売り、代金2両を受け取り、もし何かあれば、いつでも返し名号を引き取るとの旨が記されている。これは商品購入後、不具合などがあれば、購入商品返品と引換えに購入代金を返金する、現代のシステムとまったく同じである。

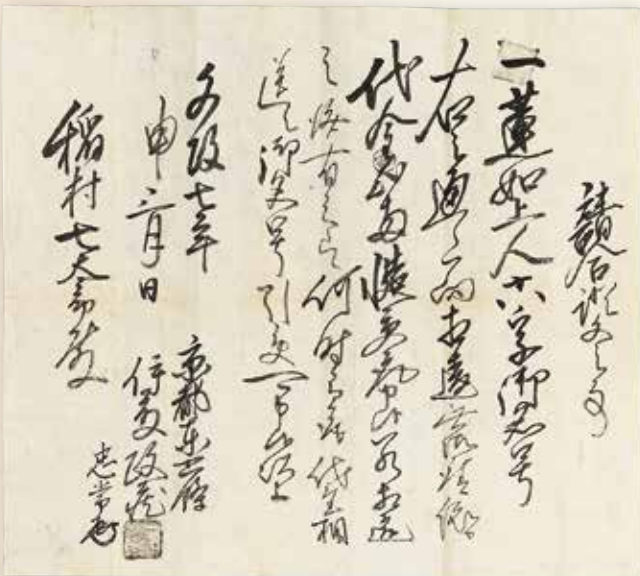
この蓮如とは本願寺第8代で、室町時代後期に浄土真宗の全国的展開を成した人物である。六字名号とは阿弥陀如来の異称「南無阿弥陀仏」の文字を紙に墨書したもので、木像の仏像と同じ文字の本尊である。蓮如は名号授与を強力な布教手段としたという。事実、蓮如と伝える名号は真宗寺院や門徒の家に多く伝来する。

ただその中には江戸時代作の偽物が多くある。これは蓮如というブランド名号を求める多くの篤信者をターゲットに、業者が偽の名号を制作多売したためである。ブランド品の偽物を作り儲ける商売は江戸時代からあったのである。

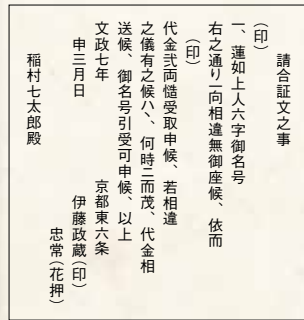
さてこの文書の名号は本物であったのか…今となってはわからない。最後に「本物の六字名号とはこれだ!!」という写真を掲載しておく。

(附属博物館長 兼 学術研究院教授 大喜直彦/地域教育文化学部主担当)

*参考文献：山辺町史編集委員会・山辺町史編集委員会編集「山辺町史」上巻、山辺町、2004年



山形大学附属博物館「古文書近世史料目録第3号 東村山郡山辺町大蔵 稲村家文書」81-6



蓮如筆「六字名号」
西善寺(大阪市)所蔵

●この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧になれます。

山形大学 みどり樹 検索

●「みどり樹」は、年2回(春号・秋号)発行する予定です。

●次号88号から、web版のみでの発行に変更となります。

●みどり樹WEBアンケートを実施中です。ご意見やご感想をお寄せください。



今号の
表紙

東京都文京区にあるTOPPAN ホールディングス(株)小石川本社ビルにて。鷹社長と玉手学長の対談では、革新し続けるTOPPANについてのお話やこれからの時代を担う学生たちへの思いをお聞きすることができ、大変有意義な時間となりました。

